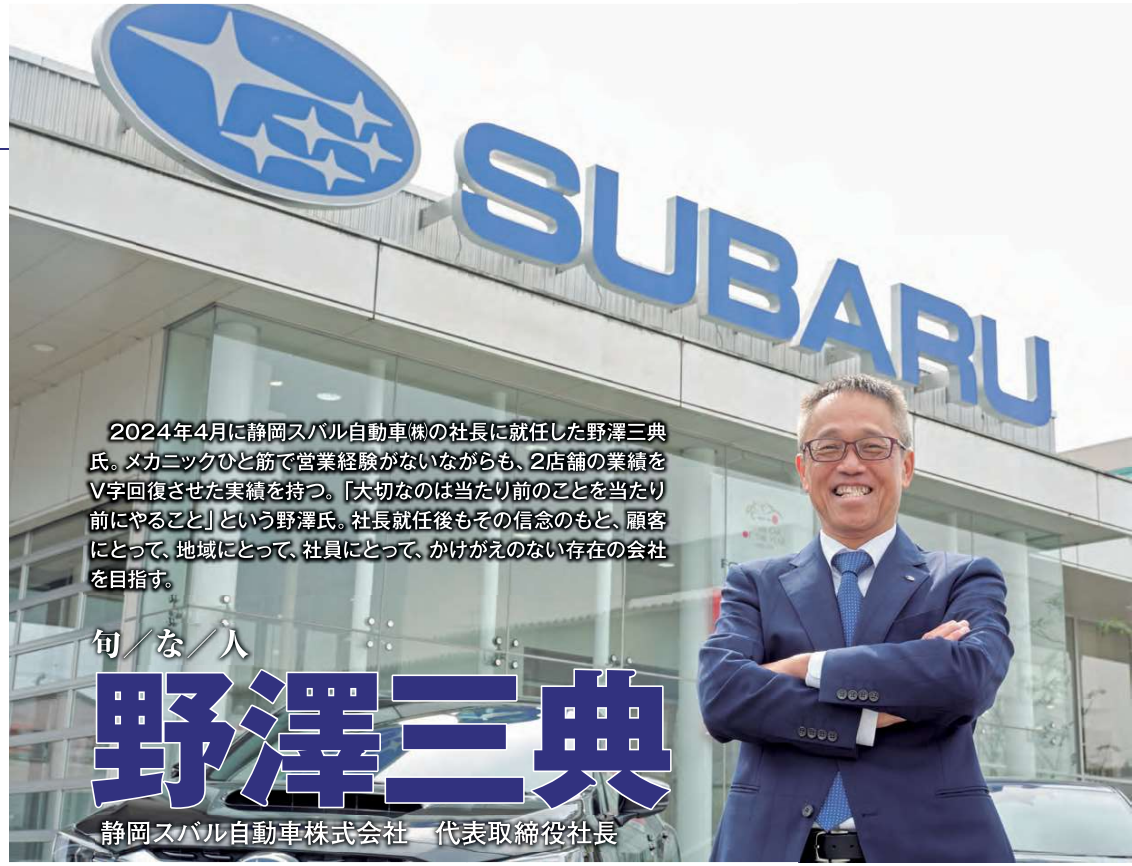

2024年4月に静岡スバル自動車㈱の社長に就任した野澤三典氏。メカニックひと筋で営業経験がないながらも、2店舗の業績をV字回復させた実績を持つ。「大切なのは当たり前のことを当たり前にやること」という野澤氏。社長就任後もその信念のもと、顧客にとって、地域にとって、社員にとって、かけがえのない存在の会社を目指す。

旬／な／人

野澤三典

静岡スバル自動車株式会社　代表取締役社長

有言実行を貫いてきた 生え抜き社長が目指すのは 愛され選ばれ続けるカーディーラー

世界的ラリーの舞台で気づいたメカニックとして大切な精神

実家がガソリンスタンドを経営していたため、車やバイクは身近なもので自然と興味を持ち、自動車業界に入るのは必然だったと野澤氏。勉強は嫌いだったが整備の勉強は熱心に打ち込んだ。静岡スバル自動車には、内定を得ながらも一度は辞退。野澤氏の資質を見込んだ当時の採用担当者からの熱心なアプローチの末、入社を決めた。

働き始めると仕事は楽しく、職場環境のよさも実感。入社から3年が経つ頃には、世界ラリー選手権(WRC)の派遣メカニックになるという目標もできた。有言実行でスキルを磨き、スバルのメカニック認定制度の最高レベル1級(※現在の最高はS級)を取得。1999年のWRCオーストラリアで選抜され意気揚々と参加したが、観光気分で出かけた野澤氏は、命じられた部品交換を指示された10分という時間内で終わらせることができなかった。「自分では実力があると思っていたので悔しかったですね。冷静にやれば5分で完了する作業。猛反省し気持ちを入れ替え、翌日はチームの誰にも負けない作業をしました。おかげでミッション交換という、18人のメンバーの中から2人しか選ばれない重要な作業を任されました」。ちなみに、このラリーでスバルは見事優勝している。

過酷な状況で走るラリー車両を、的確かつスピーディに整備し、命懸けで運転するドライバーを支える。この経験は、仕事は楽しくやるもので、車を修理できてうれしいという自分軸の考え方から、〝顧客や会社のためにもっと真剣にやらなければ〟という意識をもたらした。「メカニックの世界は厳しい。汚れるし重労働だし、工場内も快適とは言えない環境になることもある。そして、お客さまの大切な事をお預かりし、安心して乗れる状態にするのが当たり前。では、そのためにどうするかということが、今、若手メカニック育成の指針になっています」。

〝当たり前〟を徹底して顧客と部下の信頼を得る

34歳の時にサービス係長に昇進した。修理依頼はすべて受け、作業時間の短縮と同時にクオリティの向上を図ったことで、所属する富士宮店はいつしか全国トップクラスの利益を挙げる店舗となっていた。その手腕を見込まれ、三島店の店長に就任。店舗側では、営業経験のない鬼軍曹が来ると噂されていたそうで、若いスタッフとの間には見えない壁を感じたという。それでも1年後には、店長のためならと動いてくれるようになった。「お客さまとの信頼関係がなければ車は売れません。営業経験はありませんでしたが、私が知っている、〝当たり前のことを当たり前にやる〟ということを指導した記憶はありません。約束を守り、きちんと整備をするだけ。クレームには真摯に向き合い、社員を叱るのではなく冷静に話を聞き、失敗の反省を次に生かせと言う。その繰り返しでした」。次に赴任した沼津店でも、顧客を心地よく出迎えるよう挨拶と掃除を徹底し、業績回復に貢献した。

当時の部下から、「宇宙人と仕事をしているようで、毎日奇想天外なことが起こる」と言われたことがあると野澤氏。「既成概念にとらわれず、良いと思ったことはすぐに取りかかるからかなと思います。自分では、未来の姿と段取りを考えて進めているつもりなのに(笑)」。〝宇宙人〟たるゆえんは、品質とスピードが求められるメカニックの資質なのかもしれない。

その後、東部の統括責任者などを歴任した後、サービス部長に就任。名実ともに、静岡スバル自動車のメカニックのトップに立った。

「社長になる」が現実となり周囲から愛される会社を目指す

社長の打診を受けたのは2024年。取締役業務統括本部長に就任して1年が経とうとした頃だった。入社以来、自分が社長になって、もっと良い会社にしたいと本気で考えていたという野澤氏だったが、まさか本当に社長の話が来るとは思っていなかった。3日間悩み断るつもりだったが、現会長の後押しと、妻と母の「やってみるしかないでしょ」の言葉で、引き受ける決心をした。

5カ年中期経営計画のスタートが重なった社長就任。キックオフの場では「誰からも選ばれ続けるかけがえのない存在になろう」というスローガンを発表した。これは、野澤氏がサービス部長になった時に自身に課したテーマでもある。顧客にとっては、車のかかりつけ医のような存在に。地域社会からも、もちろん社員からも愛される会社を目指す。「今の立ち位置は、まだスタートラインの手前。お客さまも社員もみな笑顔になり、『やっぱり静岡スバルっていいよね』と言われるような会社にしたい。そのためには、先輩たちや私がラリーのメカニックに憧れたように、社員それぞれが目指せる憧れのポジションと、キャリアを積める環境、公平な評価制度を、自社内に確立することが大事だと考えています」。

働き手不足が叫ばれる時代、力を入れるのは若手の育成だ。「教えるべきことは厳しく教える。若者も、そうした成長できる環境を求めています。管理職も教育に対する意識を変え、自分たちも成長しながら若手の成長を支えていかなければ。その成果が十分な業績として現れた時には、たとえば社員全員をカリフォルニアのディズニーランドに連れて行くなどして社員を喜ばせたい。それが私の夢のひとつです」。

■略歴

野澤 三典（のざわ みつのり）

1970年富士宮市生まれ。高校卒業後、高山短期大学自動車工業学科(現高山自動車短期大学)卒業。1999年4月、メカニックとして静岡スバル自動車㈱に入社。1999年、WRCオーストラリア出場。2004年、「全国スバルサービス技術コンクール」に出場。その後、三島店店長、沼津店店長、東部営業部長、東部統括責任者等を歴任し、2017年に執行役員、2023年に取締役業務統括本部長就任。2024年4月より現職。趣味は週2日のサーフィン。